



わくわく通信 NO. 167

水害時、ハケ下の施設で暮らす人の避難を確実に

奥村さち子 一般質問より

府中市の崖線より南の地域、いわゆるハケ下にも高齢者施設、障がい者施設など、配慮が必要な人が利用する施設が12か所あり、施設ごとに水害時を想定した避難確保計画の作成が国から義務づけられています。

市は、一昨年秋の台風による避難時の混乱から、昨年水害対策を見直し、高齢者、障がい者、妊産婦などのために要配慮者専用の避難所をハケ上に開設し、そこへ避難するよう求めています。しかし施設で暮らす人には移動困難な方が多く、安全な避難が可能なのか、市はどのように支援するのか、質問しました。

施設から提出された避難確保計画の中には、施設の階上に避難する(垂直避難)計画を提出した施設もあることを市は認めました。しかしあくまで市は、ハケ上に避

難すること(水平避難)を市民に求めており、福祉施設に対しても水平避難を検討してほしいとの答弁でした。ハケ上の要配慮者専用の避難所には十分なケア体制は整っていない、他の受け入れ先や移動の支援についても考えていないとのことでした。

配慮が必要な人が暮らす施設では、ケア体制や、移動の問題などを考えると一概に水平避難が最善とは言えず、垂直避難をせざるを得ないこともあります。昨年市が運営する特別養護老人ホームを訪問した際には、介護度が高い方が多く、避難は容易ではないと感じました。市は、施設に暮らす高齢者や障がい者の避難に対しても責任を持つべきです。福祉の部局と連携し、各施設の実情を把握し、避難支援を検討するよう求めました。

台風19号接近時の避難状況についてアンケート調査を行いました

2019年の台風19号においては、府中市でも一部地域に避難勧告が出されました。その時の避難状況について水害ハザードマップをもとに、あらためて多摩川周辺地域でアンケート調査を行いました。

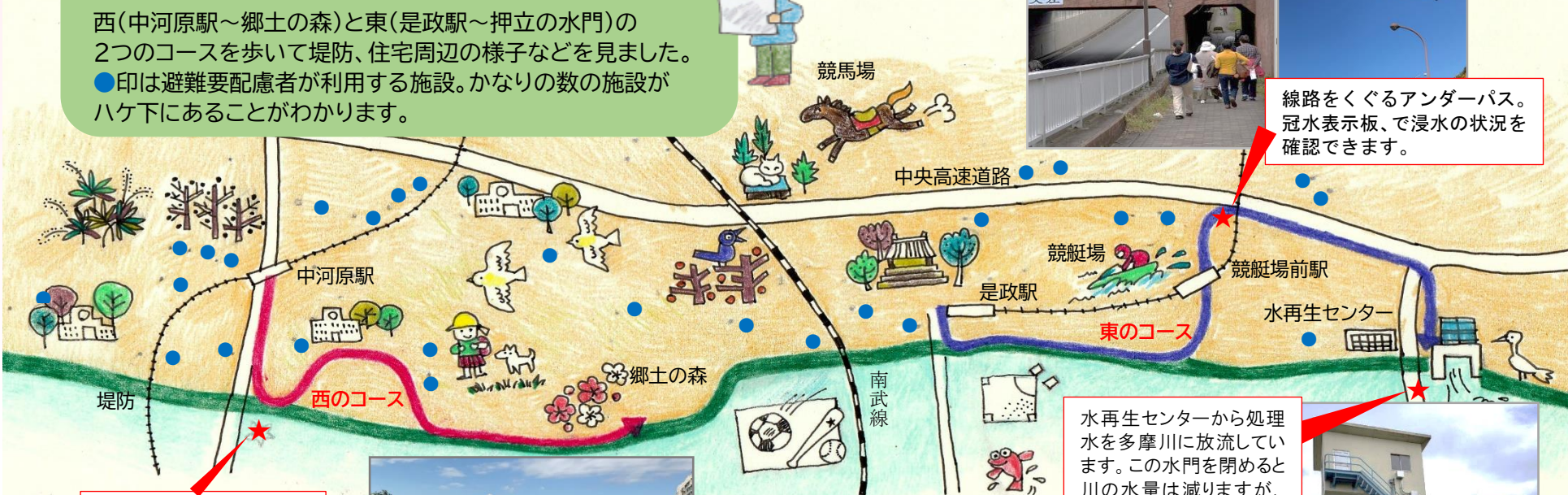
回答数145名のうち「避難した」が70名、「避難しなかった」が75名でした。半数以上が避難しなかったということで、理由としては「移動が難しかった」という回答が最も多数でした。高齢者はハケ上の避難所まで歩いて行くことはできないという切実な意見が多く寄せられ、近隣施設での垂直避難を求める要望もありました。

一方、避難した人の避難先は、市の避難所37%、親戚宅45%、知人宅9%、その他9%です。市の避難所はいっぱいに入れなかったという人が多く、避難所を回ったり、自宅に帰ったり、悪天候の中たいへんな状況だったことがうかがえます。

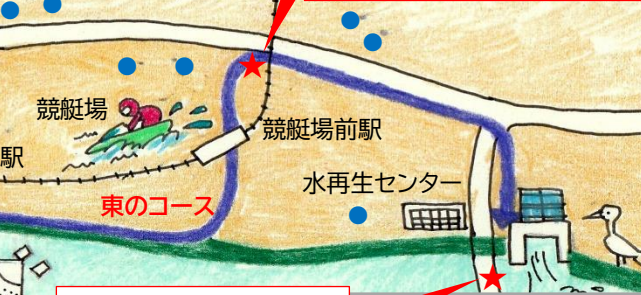
避難所はコロナ禍で今後さらに感染対策も求められます。寄せられた意見はまとめて市に提出します。

ハザードマップを見ながら実際に多摩川周辺を歩きました

西(中河原駅～郷土の森)と東(是政駅～押立の水門)の2つのコースを歩いて堤防、住宅周辺の様子などを見ました。
●印は避難要配慮者が利用する施設。かなりの数の施設がハケ下にあることがわかります。

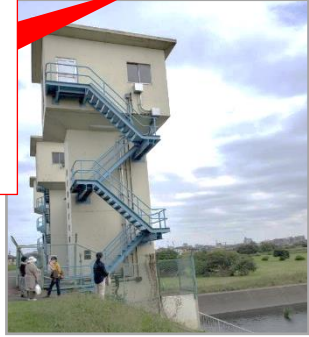


線路をくぐるアンダーパス。冠水表示板で、浸水の状況を確認できます。



水再生センターから処理水を多摩川に放流しています。この水門を閉めると川の水量は減りますが、下水道からの内水氾濫が起きる恐れがあります。

関戸橋の影響で堤防の高さが不足している場所があります。





西のなお美
一般質問

学校給食に地場産有機野菜を利用し、食の安定・安全を！

農業の使用や遺伝子組換え食品、ゲノム編集といわれる技術などにより食の安全が脅かされています。学校給食でも農産物がどこでどのように作られるかを知り、身近な地域産の農産物を食べることは食育の面でもとても大切です。さらに地場野菜を有機栽培にすることで食の安全を確保するために質問しました。

給食のない夏休みに府中で収穫したトマトでピューレを作るなど、地産地消の工夫はされていましたが、地場産野菜の使用量は5.3%と総合計画の目標値8.0%には届いていません。都の工口農産物認証を受けている野菜を給食用に納入する際は10%上乗せした金額で購入し、低農薬野菜の利用を進めているとのことですが、価格面や大量仕入れが難しいことから使用の拡大は厳しいとの答弁でした。

災害などの緊急時には地域で食材確保をすることが必要です。さらに有機栽培は環境負荷を減らします。



奥村さち子
一般質問

地下水汚染の対策を早急に！

学校給食で子どもたちの食の安全を確保することから、地域全体の食の安定につながるべきと訴えました。

府中武蔵台浄水所の水道水源井戸から、高濃度の有機フッ素化合物(*PFOS、PFOA)が検出されました。配水区域の住民にNPO法人が実施した血液検査では、PFOSの血中濃度が全国平均値の2倍であったことが、昨年10月に新聞報道されました。東京都水道局は2019年、アメリカが定める目標値を超える数値が検出されたため、取水を停止しましたが、それまでの9年間にわたって、井戸水から高濃度の有機フッ素化合物が検出されていたこともわかりました。多くの地域住民から不安の声も届き、市の認識を質問しました。

市は水道や地下水の管轄は国や都であることを理由に、市民の不安に対する積極的な動きはしていませんでした。国や都に対し早急な調査と原因究明をすることを強く求め、不安をもつ住民には健康調査を行ない、汚染除去の取り組みをするべきと訴えました。

新型コロナウイルス感染症対策補正予算について

- ◆長引く不況から、困窮者が増え続けている状況を受け、住居確保給付金の増額と職の紹介を行なう自立支援事業の拡充が決まりました。昨年末から職や住まいを失う人の増加がみられ、役所が休みの間も相談窓口を開くことを求めましたが、「例年通りの対応」に留まりました。
- ◆障がい者や高齢者の通所施設でコロナ感染者が発生した場合の検査費の補助が予算化されましたが、訪問介護事業者は対象外となっています。感染拡大を防ぐためには、在宅の利用者と介護者も対象とするべきと要望しました。

*PFOS、PFOA:有機フッ素化合物の一種。環境内で分解されにくく、生物中に蓄積される。国際的に製造・使用が制限されており、発がん性や子どもの発育への影響が懸念されている。



地下水は大切な資源であり、市は環境問題として深刻に捉えるべきです。農地の保全や、災害時などの緊急の水源としても重要です。今後も、地下水の問題について継続的に取り組んでいきます。

お知らせ

生活者ネットワーク福祉部会 わくわくサロン
空き家は地域のたまたまて箱

～空き家の利活用学習会～

1月23日(土) 14:00～16:00 参加費無料
府中市市民活動センタープラッツ 第3会議室

三鷹市にある『えんがわ家』は、誰もが気軽に立ち寄れる居場所であり、地域に開かれたシェアハウスです。えんがわ家を運営している一般社団法人 ENGAWA 代表理事の若島慎兵さんから、家の持ち主が地域住民と一緒に立ち上げた経緯や資金計画、活動内容などを伺います。是非ご参加ください。

わくわくまちづくりトーク

議会報告とまちづくりについての意見交換の会です。

1月31日(日)10:00～

府中市市民活動センター プラッツ 第7会議室

●いずれも人数制限がありますので、参加ご希望の方は、生活者ネットワークのホームページ、もしくはお電話にてお申し込みください。
問い合わせ、申し込み:府中・生活者ネットワーク
連絡先:TEL 042(360)4443
※zoomでも参加できます。参加ご希望の方は、ホームページからお申し込みください。
ホームページ: <https://fuchu.seikatsusha.me/>



官製談合事件、原因究明と再発防止を

昨年6月に元市議2人が公契約関係競争入札妨害で逮捕された談合事件は、関係者全員が罪を認め有罪となりました。しかし、元部長の公判では、他の議員にも情報を漏らしたとの証言が出るなど、疑惑は広がっています。議会で設置した再発防止の特別委員会としても「倫理条例」を作つて終わりにするのではなく、議員と職員にどのような関係性があつたのか、などの検証が必要です。
市民から、「談合裁判で判明した別の漏えいについて事実説明を求めろ」陳情が出され、生活者ネットワークは採択を主張しましたが、反対多数により不採択となりました。事件の原因究明なしでは議員と職員の関係をただす再発防止策を先に進めることはできません。

「ひとり親世帯臨時特別給付金」再支給、必要な世帯に届く工夫を！

昨年7月に国が給付した「ひとり親世帯臨時特別給付金」。昨年末に再度支給がありました。「児童扶養手当を受給している世帯」が対象ですが、公的年金を受けていたり、コロナで家計が急変した世帯も受給できる可能性があります。必要な世帯に情報が届くように、また、制度の狭間で困窮している世帯に支援が届くような施策が必要です。
締め切りは2月26日(金)。申請は2月25日(木)までに府中市子ども家庭部子育て応援課に。

